

Nutrition Support Times



栄養サポートをすべての患者に！

この6月はNST研修生を受け入れ、無事、研修が終了できた事をととても嬉しく思っています。研修生の中には、北海道から参加された方もおられ、2010年の診療報酬改定に伴う「栄養サポートチーム加算」の新設に伴い、ますますNST活動の重要性が認められていくのだなと感慨深く思いました。しかし、診療報酬の規定の中にはNSTの選任チームの中に1名の「専従」要件がつけられているのです！衝撃です！このような超急性期病院において、複数の副業(?)も余儀なくされている多忙なスタッフから1名でも専従として配置しなくてはならないなんて、大きなハードルだといえます。ですが、返せばより「質の高いNST」活動が求められる訳で、武者震いしながらもまい進していくしかないと思っています。

さて、現在ツールドフランスという自転車レースがフランスで行われていますが、皆さんご存知ですか？自転車競技はマイナーなスポーツなので余りご存知ない方が多いと思いますが実に激しいスポーツなのです。選手は3000kmあまりもの距離を、ロードレース用の自転車に乗ってフランス国内を約3週間にわたって駆け抜けます。一日の走行距離が200kmのときもあり、この距離を走ると選手は実に6000kcalものエネルギーを消費しています。平均時速40~50kmで競い合う選手たちは、栄養や水分の不足した状態ではレースを持続できないため、通常の食事に追加して自転車に乗りながらも食事を取り、水分を補給するのです。スポーツ選手はその運動技術

を高めるだけでなく、自分自身の体をアセスメントし、必要な栄養をとります。保持しなければならない筋肉、体重の管理、運動によって消費される栄養、蛋白質、カロリーやミネラル、ビタミンなどを、IN-OUTを計算して、過剰でなく、不足もさせず、効率よく体に取り入れていくことが勝利への一歩だということが分かっているから。きちんとした体作りが何よりも基本なのです。つまり、選手にかかわるチームが、その選手をプログラミングして大事な試合に臨んでいるのです。

このように、戦うためにはまず戦略が必要です。ですが、病院の中を見渡すと、病に打ち勝つためにベッドの上で戦っている患者さんが、大きな敵に立ち向かうのに「低栄養」というハンディを持って孤立奮闘しています。一緒に勝利を目指す仲間、敵に玉を打ち込むことだけに神経を集中させ、へろへろになっている患者さんを後方に置き去りにしてしまっています。いかがなものでしょうか？敵を倒すことも大切ですが、患者さんとパートナーシップを組む私たちの役割は、戦略を持って敵と戦い、患者さんを「病に勝つ」方向へ導くことが一番に求められるのではないのでしょうか？栄養サポートが、その大切な戦略として重要な位置づけであることを多くの医療者が当たり前のように行えることを願います。 M.M



NCM 講演会予定



月日	内容	担当
7/22	スクリーニング	山城検査技師 有岡管理栄養士
8/12	試飲会	スタッフ
8/26	経腸栄養	東別府先生
10/28	経静脈栄養	未定
11/25	肝障害と栄養	未定
H23/1/27	腎障害と栄養	未定
3/24	PEGについて	未定

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00~ 8北(861)NSTカンファレンスルーム

編集後記

私たちNSTメンバーは、すべての患者さんに適切な栄養サポートができるように活動しています。病気を治療するうえでまず基本となる栄養は、どなたに限らず必要で、予後を左右する大きな因子だと言われています。患者さんの栄養SOSを早く気付いてサポートできるNSTになれるようになりたいなあ。

研修にいったときの話

医療が裾野を広げより専門的な分野に細分化される中、超基本といえる栄養はどこかに置き忘れられたかのように、大学の医学部での6年間の中で1講座あるかないかが普通だそう。NSTにかかわる私たちが栄養治療の大切さをいくらささやいても、栄養に興味のない指導者に教えられた若い医師たちは、栄養のことを考えずに治療に取り組む医師になると、ある外科の先生が言われていた。確かに。しかし、これは医師に限ったことではなく我々コメディカルにも言えることであろう。後輩指導は広い視野で超基本を忘れず、将来を考えたものでなければと痛感した。

